

佐久市埋蔵文化財

年報 5

平成7年度

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財

年 報 5

平成7年度

佐久市教育委員会

目 次

I 組 織

1 組 織	3
2 体 制	3

II 事 業

1 調査事業費	7
2 保護・保存事業	7
(1) 現状および指定保護・保存	7
(2) 記録保存	7
3 善及・公開事業	9
4 分析・鑑定	10
5 刊行図書	10

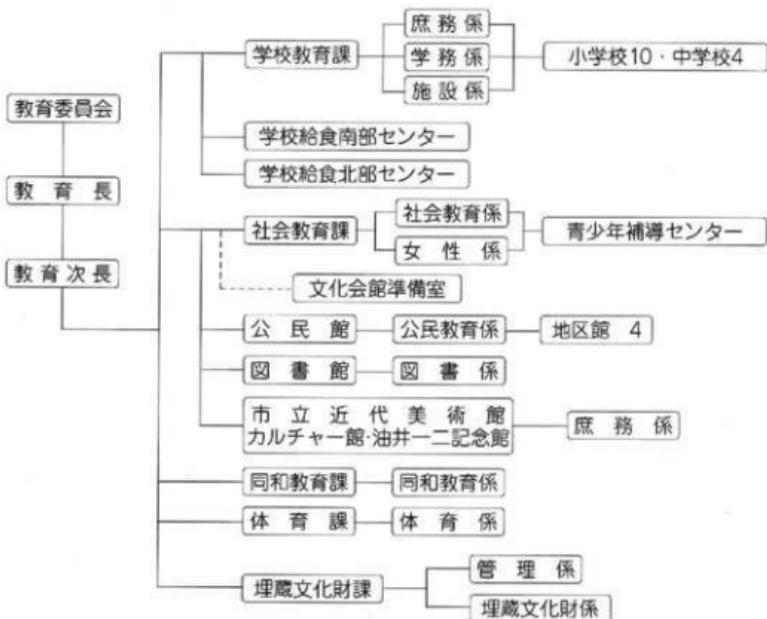
III 調査概要

権現平・池端城跡	12
八風山遺跡群	14
五斗代遺跡群	16
上の平遺跡群寺中遺跡	18
聖原遺跡IX	20
聖原遺跡X	24
高山遺跡II	27
高師町II	29
上芝宮遺跡V	31
平賀中屋敷遺跡II	33
西一本柳遺跡III	35
中西の久保遺跡II	37
寺畠II遺跡	39
中田遺跡	41
様名平IV	43
上村遺跡	46
芝宮遺跡群上芝宮遺跡IV・下曾根遺跡III	48

I

組 織

1 組織



2 体制

(事務局)	佐久市教育委員会 埋蔵文化財課
教 育 長	大井 季夫 (6月退任) 依田 英夫 (7月就任)
教 育 次 長	市川 源
課 長	戸塚 满
管 理 係 長	谷津 恭子 (6月退任)
管 理 係	田村 和広
埋蔵文化財係長	大塚 達夫
埋蔵文化財係	林 幸彦、三石 宗一、須藤 隆司、小林 真寿 羽毛田卓也、富沢 一明、上原 学
調査主任	佐々木宗昭、森泉かよ子
調査副主任	堺 益子

調　査　員

相澤今朝義、青木　秀夫、浅沼ノブ江、阿部　和人、荒井　かつ
荒井　豊平、荒井　利男、荒井ふみ子、安藤　静、飯沢つや子
磯貝　はな、市川　愛子、市川チイ子、市川　信子、井出　愛子
井出つねじ、井出徳四郎、井澤　力、井上　行雄、岩崎　重子
岩下　吉代、岩下とも子、岩下　文子、上原　希、上原美恵子
上原　幸子、上原　芳男、碓氷　健、江原　富子、江元　好雄
遠藤しづか、遠藤　忠男、大井　キセ、大井　文雄、大井みつる
小山内玲子、小田川　栄、小田川時江、小幡　弘子、柏原　松枝
金森　治代、川多アヤ子、木内　明美、菊池　喜重、工藤しづ子
倉見　渡、湖沢三之助、黒沢　三男、高地　正雄、神津さよ子
神津ツネヨ、神津登久子、神津　春代、神津よしの、小金沢たけみ
小須田サクエ、小林　幸子、小林　妙子、小林　立江、小林まさ子
小林　三男、小林　弘子、小林百合子、小林よしみ、小松三喜枝
小山　澄恵、斎藤　義男、桜井　牧子、佐藤　愛子、佐藤けさ子
佐藤志げ子、佐藤　玉枝、篠崎　清一、篠原　昭子、清水佐知子
満水　六郎、白井おくに、須藤　吉助、巣山　陽美、関口　正
高橋かね子、高橋　敬子、高橋サチコ、高橋　ふみ、高橋　冬子
竹内由美子、武田　千里、武田まつ子、田中　章雄、角田　すい
角田すづ子、角田　時、角田トミ工、角田　良夫、東城　友子
東城　幸子、徳田　代助、桶田　咲枝、中嶋　角治、中嶋きねよ
中嶋武三郎、中島　文子、中嶋　良造、並木ことみ、成沢　富子
新津　誠、新津　幸雄、中條　しげ、中條　繁子、中山たのし
萩原　宮子、羽毛田香里、橋詰　勝子、橋詰けさよ、橋詰　信子
花岡美津子、花里香代子、花里四之助、花里三佐子、花里八重子
原　キミ工、原野　洋子、林　美智子、樋口喜美子、比田井久美子
星野　良子、細藪ミスズ、細谷　秀子、堀籬　謹子、堀込　成子
堀籬　因、堀籬みさと、真嶋　保子、増野　深志、丸山　澄
水周　雅義、三石　和子、宮川百合子、武者　幸彦、村松　とみ
茂木とよ子、桃井もとめ、森泉　欽一、柳沢千賀子、柳沢ちなみ
柳沢豊志子、山浦　豊子、山口　丑男、山崎　直、山田　幸枝
依田　みち、和久井義雄、渡辺久美子、渡辺　倍男

II

事業

凡 例

- 1 本書では平成7年度の発掘調査の概要を収録した。
- 2 遺跡の位置図は、佐久市発行の50,000分の1地形図を使用した。
- 3 遺跡の概要是、各担当者が執筆した。

1 調査事業費

平成7年度埋蔵文化財調査事業費	予 算 額	325,123,000 円
	決 算 額	324,880,379 円
	受託事業費	248,465,500 円

2 保護・保存事業

(1) 現状および指定保護・保存

該当なし。

(2) 記録保存

1) 概要

開発原因者	調査実施数					報告書 刊 行
	発掘	試掘	立会	整理	計	
国 県 市 等	国・県補助					1
	長野県土地開発公社			2	2	1
	佐久建設事務所	2	2	2	6	
	佐久下水道組合					
	佐久市土地開発公社	2	2	1	5	
	佐久市開発公社					
	佐久市	7	7	1	15	
個人・民間業者	5	47	13	3	68	3
合 計	16	47	13	6	82	5
原因者負担	16	2	2	6	26	4
国・県補助		45	11		82	1

2) 発掘調査

No	遺跡名	所在 地 面 積	備 考
1	櫛現平 塗瑞城跡	佐久市大字新子田字櫛現平倅 6,000 m ²	住 6 (縄～平)、竪穴建物址 56 (中世)、土坑、溝
2	八風山遺跡群	佐久市大字香坂南原他 8,061 m ²	石器制作跡 (旧石器)、陥穴群
3	五斗代遺跡群	佐久市大字香坂字五斗代他 11,972 m ²	石器制作跡 (縄早～中)、陥穴 28 (縄早)、 住居址 1 (平安)
4	上の平遺跡群 寺中遺跡	佐久市大字輪澤字寺中 1057-1 460 m ²	住 1 (平安)、埋没谷
5	長土呂遺跡群 聖原遺跡 IX	佐久市大字長土呂 7,600 m ²	住 45 (古～平)、掘立 75、土坑 8、粘土坑 5、溝、Pit
6	長土呂遺跡群 聖原遺跡 X	佐久市大字長土呂 4,200 m ²	住 35 (古～平)、掘立 33、土坑 27、溝 8
7	芝宮遺跡群 高山遺跡 II	佐久市大字長土呂字下山原 3,046 m ²	住 8 (平)、掘立 8、土坑 7、溝
8	高師町 II	佐久市新子田字高師町 1387-4 1,800 m ²	住 2 (平安)、掘立 2、竪穴 5 (中世)
9	芝宮遺跡群 上芝宮遺跡 V	佐久市大字長土呂上芝宮 180 m ²	佐久市埋蔵文化財調査報告書第 47 集「上芝宮遺跡 V」 住 2 (平安)、掘立 2、土坑 2、Pit 21
10	平賀中堅敷遺跡群 中堅敷遺跡 II	佐久市大字平賀字北耕地 119 m ²	住 3 (古墳)、溝 1、Pit 8
11	一本柳遺跡群 西一本柳遺跡 III	佐久市大字岩村田字西一本柳 11,000 m ²	住 122 (縄～平)、掘立 25、土坑 5、溝 9、Pit 183
12	中西の久保遺跡群 中西の久保遺跡 II	佐久市大字岩村田字中西の久保 1,650 m ²	住 34 (古墳・平安)、掘立 7、溝 3
13	寺畠遺跡群 寺畠遺跡 II	佐久市大字猶久保字下原 1,200 m ²	住 1 (平安)、竪穴 2 (中世)、土坑 3 溝 1、縄文時代草創期爪形文土器 - 14 片
14	仲田遺跡	佐久市大字猶久保字仲田 2,260 m ²	住 30 (古墳～平安)、掘立 9、土坑 5
15	棲名平 IV	佐久市大字根岸字棲名平 1,912 m ²	住 16 (縄～平)、掘立 1、土坑 42、溝 5、尖脊窓 2 埋没谷 1
16	長土呂遺跡群 上村遺跡	佐久市大字長土呂上村 202 m ²	土坑 1、溝 2、Pit 6、旧流路 2
17	芝宮遺跡群 上芝宮 IV 下曾根遺跡 III	佐久市大字長土呂 5,000 m ²	上芝宮 - 溝状遺構 1 下曾根 - 住 22 (古～平)、他

3) 整理調査

No	遺跡名	所 在 地 面 積	備 考
1	桙現平 池端遺跡	佐久市大字新子田字椎現平地 宅地造成	平成 6 年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第 43 集 「桙現平遺跡・池端遺跡」
2	稻畠遺跡	佐久市大字上平尾 スキーバー場建設	平成 5・6 年度発掘調査 住 31 (縄～平)、掘立 1、竪穴 6、土坑 107
3	海り遺跡	佐久市大字保原 倉庫及び事務所建設	平成 4 年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第 46 集「海り遺跡」
4	桙名平遺跡	佐久市大字桙岸字桙名平 厚生年金福祉施設建設	平成 4、5 年度発掘調査 住 114 (縄～平)、掘立 6、古墳、火葬墓、土坑
5	三千束遺跡群 寺添遺跡	佐久市大字三塚 73 - 9 長野県農業専門学校建設	平成 6 年度発掘調査 佐久市埋蔵文化財調査報告書第 44 集「寺添遺跡」
6	根々井芝宮遺跡	佐久市大字根々井 238 他 宅地造成	平成 4 年度発掘調査 住 57 (縄中～平)、掘立 2、土坑 11、溝 4

4) 試掘・立会調査

試掘調査 58 件
立会調査 13 件

3 普及・公開事業

(1) 第 16 回少年考古学教室

開催遺跡 一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅲ (佐久市大字岩村田)
 開催期日 平成 7 年 8 月 7・8・9 日
 対 象 市内小中学校生徒
 内 容 講話 「佐久地方における発掘調査の成果」
 実技 弥生・古墳時代の竪穴住居址、溝址の発掘調査
 見学 佐久市出土の考古遺物、西一本柳遺跡Ⅲ検出の竪穴住居
 址等

4 分析・鑑定

(1) 寺添遺跡

獣骨鑑定 群馬県立大間々高校 宮崎重雄氏
種子・樹種同定 パリノ・サーヴェイ
木製品保存処理 東都文化財研究所

(2) 八風山Ⅱ遺跡

放射性炭素年代測定 株式会社古環境研究所

5 刊行図書

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第 43 集 「権現平遺跡・池端遺跡」
- 第 44 集 「寺添遺跡」
- 第 45 集 「市内遺跡発掘調査報告書 1994」
- 第 46 集 「濁り遺跡」
- 第 47 集 「上芝宮遺跡V」

III

調査概要

権現平・池端城跡

所 在 地 佐久市大字新子田字池ノ端

調査委託者 有限会社 新栄開発

開 発 事 業 農地整理

調 査 期 間 平成 7 年 4 月～6 月

調 査 面 積 7.048m²

調査担当者 上原 学 佐々木宗昭



池端城跡位置図

経過と立地

池端城跡は、佐久市の北東部安原地籍に所在し、標高 700 m 内外を測る大地上に位置する。本址の周辺地形は、南・北・東を山に囲まれ、西側約 80 m 前方に鏡川が流れている。ここから西方に向って比較的平坦な地形が展開し、この平地のいくつかは田切り地形をなしている。

本遺跡は、平成 6 年度に調査が行われた「権現平・池端遺跡」に隣接する地点であり、遺構が包蔵されている可能性が大きかった。このため試掘調査を行ったところ遺構の存在が確認され遺跡の破壊が余儀なくされる事態となり、記録保存をする必要性が生じた。そこで、有限会社新栄開発より佐久市教育委員会が委託を受け、平成 7 年度に発掘調査を実施した。

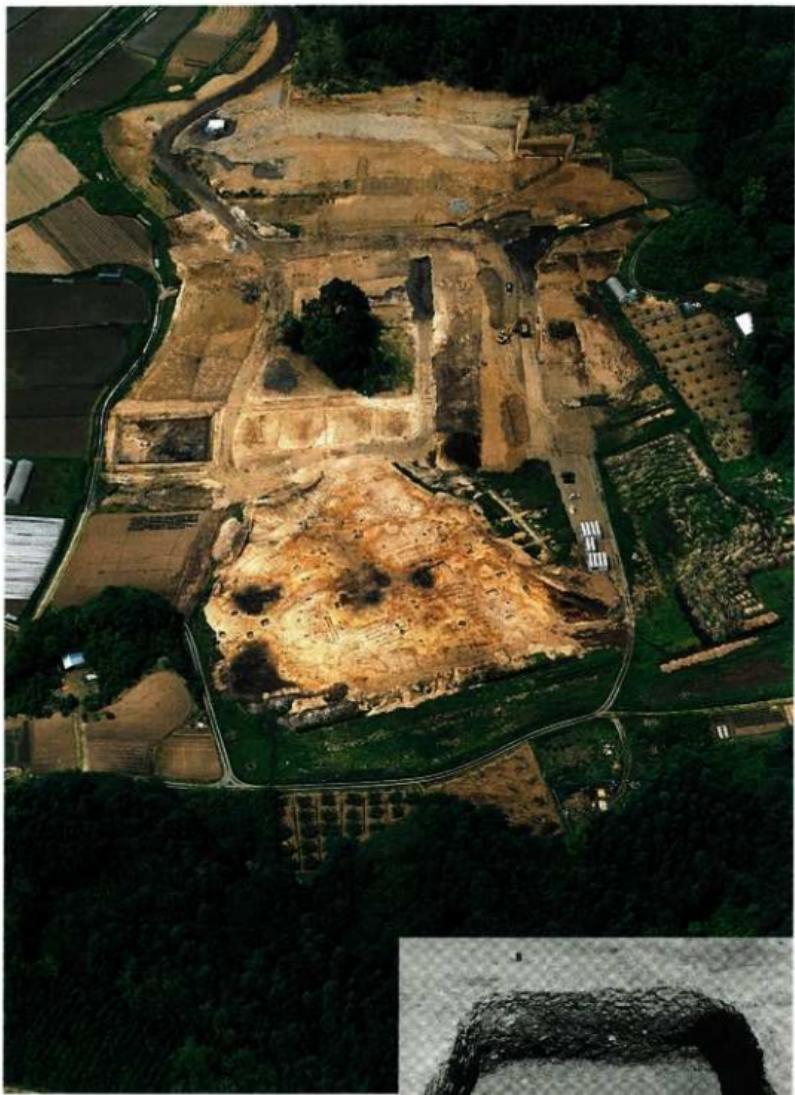
調査概要

本遺跡は縄文時代から中世に至る複合遺跡であり、下記の遺構が検出された。

縄文時代中期初頭	住居址	1棟	土坑	3基
古墳時代前期	住居址	2棟		
平安時代	住居址	3棟		
中世	竪穴建物址	56棟	土坑	28基
	溝状遺構	5条	ピット群	

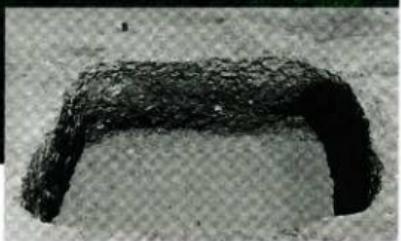
このような調査結果をみると、当調査区の範囲内からは縄文時代、古墳時代、平安時代の各遺構が数例づつ確認されている。しかし、検出された遺構の大半は中世の竪穴建物址、井戸、溝状遺構であることが認められ、本遺跡内には 15 世紀～16 世紀の中世遺構が主として展開していた様子が窺われる。

また、佐久平では古墳時代前期（約 1,700 年前）の遺構検出例は比較的少ないが、今回 2 棟の住居址が確認され、発掘調査の上で重要な資料を得た。



▲池罐城跡全景

Ta 44 号竖穴建物址▶



八風山遺跡群

所 在 地 佐久市大字香坂字雨原他

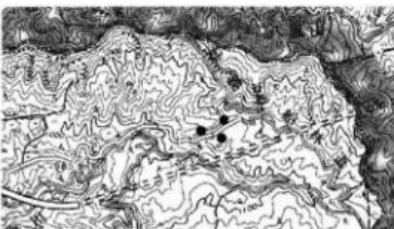
調査委託者 公栄興産株式会社

開発事業 佐久高原レクリエーション施設造成

調査期間 平成7年4月7日～8月11日

調査面積 8,061m²

調査担当者 須藤隆司、羽毛田卓也、
森泉かよ子



八風山遺跡群位置図

経過と立地

八風山遺跡群は、黒色安山岩産地である八風山の西麓緩斜面に位置している。遺跡は山麓縁辺を西流する香坂川にそそぐ、幾つかの沢によって開析された尾根状平坦面・小段丘状平坦面に立地する。現在、旧石器時代の石刃製作遺跡1カ所、縄文時代草創期の石槍製作遺跡2カ所、縄文時代早・前期の石器製作・狩獵（陥穴群）遺跡6カ所が確認されている。

公栄興産株式会社によるオートキャンプ場造成に伴う八風山遺跡群の本調査は平成5年から開始され、本年度はその最終調査である。

調査概要

本年度の調査は、八風山II・III遺跡である。旧石器時代の調査としては、昨年に引き続き八風山II遺跡の調査を行った。C14年代32,000年を測る後期旧石器時代初頭のナイフ形石器・石刃石器群であり、調査面積は昨年度との合計で300m²にすぎないが石器群の点数は約4,000点に及んだ。重さ22.4kgの原石にほぼ復元された石刃製作過程を示す良好な接合例があり注目される。

縄文時代の調査では、八風山II・III遺跡でテフラから早期と考えられる陥穴群が検出されている。八風山II遺跡では地滑りにより旧地形が変更されてはいるものの、50基ほどの陥穴の配列がみられ注目される。

八幡山II遺跡の竪穴群



五斗代遺跡群

所 在 地 佐久市大字香坂字五斗代他

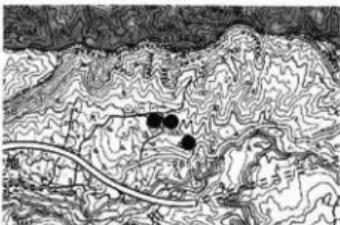
調査委託者 公栄興産株式会社

開発事業 佐久高原レクリエーション施設造成

調査期間 平成7年4月7日～11月30日

調査面積 11,674m²

調査担当者 須藤隆司、羽田卓也、富沢一明



五斗代遺跡群位置図

経過と立地

五斗代遺跡群は、佐久市香坂に位置し、標高960mから1,100mの山麓南斜面に立地している。昭和55年に調査された縄文・平安時代の遺跡である五斗代B遺跡と平成3年の試掘調査で確認された縄文時代ないし平安時代の五斗代A・C・D遺跡によって構成されている。

本調査は、交栄興産株式会社によるレクリエーション施設造成に伴う発掘調査である。

調査概要

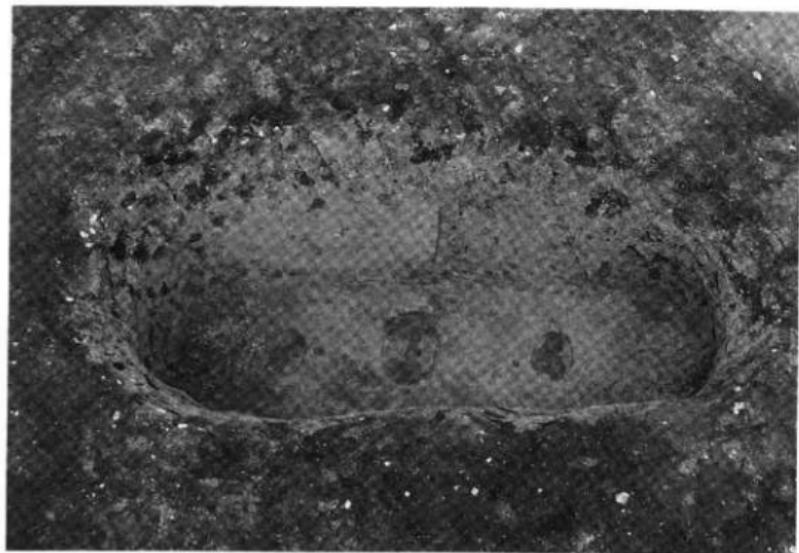
本年度の調査は、五斗代A・B・C遺跡である。五斗代A遺跡では、縄文時代早期と考えられる陥穴28基と縄文時代前期の石器製作跡数カ所が検出された。五斗代B遺跡では、縄文時代早期から中期の石器製作跡数カ所と平安時代の竪穴住跡一軒が確認されている。五斗代C遺跡では縄文時代前期・中期の石器製作跡が検出された。五斗代遺跡群の石器製作跡の性格は、原石产地との対応・製作の目的等今後の分析によるところが多い。



五斗代A遺跡調査風景



五斗代A遺跡の陥穴



五斗代A遺跡の陥穴

上の平遺跡群寺中遺跡

所 在 地 佐久市大字鳴瀬字寺中

1057-1

調査委託者 佐久建設事務所

開 発 事 業 道路改良

調査期間 平成7年11月16日～

平成8年3月31日

調査面積 460m²

調査担当者 上原 学

経過と立地

上の平遺跡群寺中遺跡は、標高649m内外の湯川と千曲川に挟まれた台地上に位置し、付近の畠地では、以前から弥生時代から平安時代に至る土器など、多くの遺物が表面採取されている。

今回、佐久建設事務所による道路改良工事が行われることとなり平成7年9月13日に試掘調査を行った。その結果、改良予定道路の南側から平安時代と思われる住居址が確認されたため、本調査を行う運びとなった。



寺中遺跡位置図

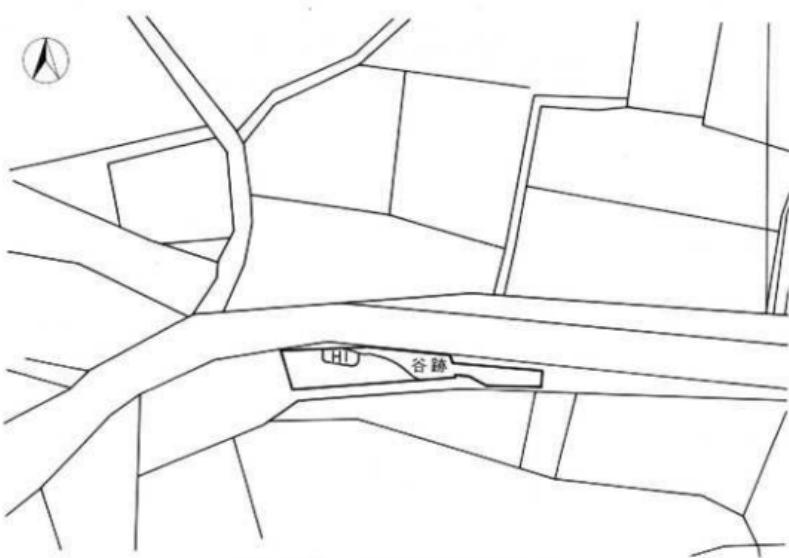
調査概要

調査は、試掘によって遺構が確認されている道路の南側約460m²について行った。確認された遺構は、平安時代の住居址1棟及び、調査区東側からは黒色土によって埋没した谷の一部が認められた。このうち住居址は北側3分の2が現道下になっているため、今回は、確認されたおよそ3分の1の調査にとどまった。住居址の調査規模は最長で南北1.8m、東西3.8m、深さ10cm



寺中遺跡住居址出土遺物

を測り、その形状から隅丸方形を呈しているものと思われる。カマド等の施設は認められないが、須恵器の壊を中心とした多くの遺物が出土した。また、遺構外からは、須恵器・土師器片に混ざり、弥生時代中期後半の土器片も認められた。



上の平遺跡群寺中遺跡遺構配置図 (1:500)



寺中遺跡住居址全景 (南から)

聖原遺跡IX

所 在 地 佐久市大字長土呂

調査委託者 佐久市土地開発公社

開 発 事 業 佐久流通業務団地造成

調 査 期 間 平成 7 年 6 月 5 日～12 月 7 日

調 査 面 積 7,600m²

調査担当者 三石宗一、森泉かよ子



聖原遺跡IX位置図

経過と立地

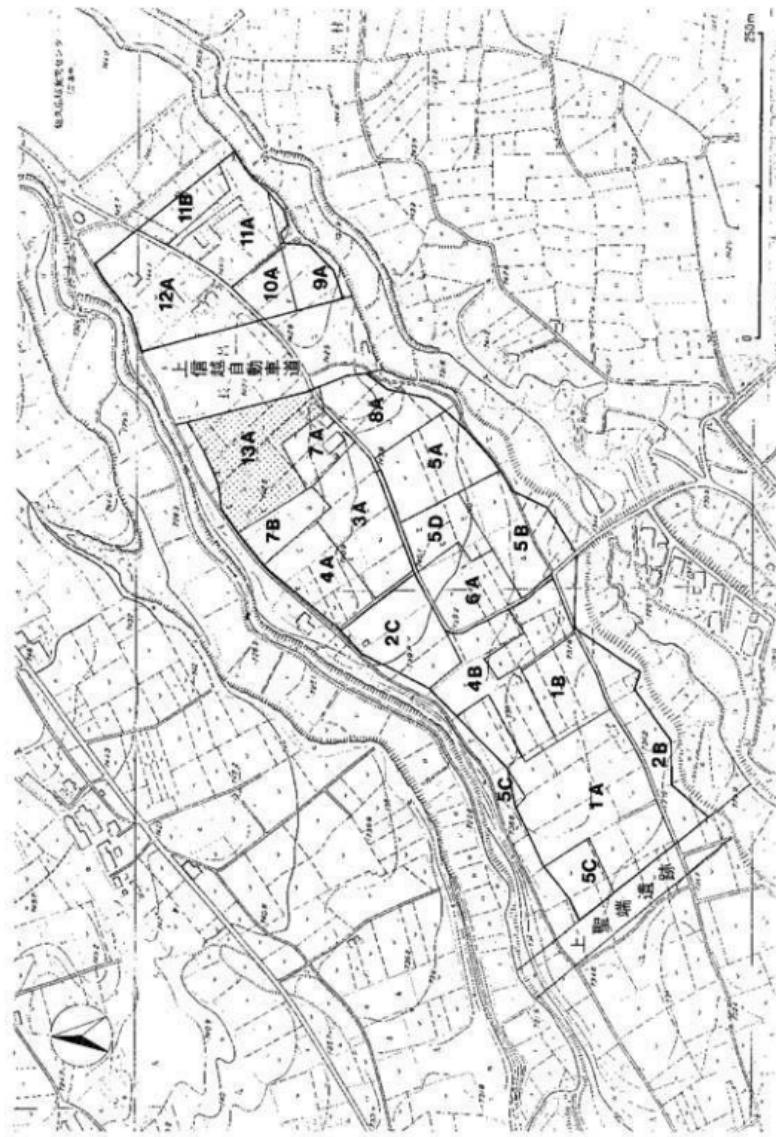
長土呂遺跡群は、佐久市の北部、浅間南麓の末端部に位置する。この地域は、田切り地形の発達した地域であり、この田切りに挟まれた台地上には長土呂遺跡群、芝宮遺跡群、周防畠遺跡群などをはじめとする多くの遺跡群が存在している。聖原遺跡は長土呂遺跡群のほぼ中央部に位置し、標高は 742 m 内外を測る。本遺跡群周辺は、上信越自動車道、国道 141 号バイパスなどの道路整備事業、区画整理事業、民間開発などに関する発掘調査が相次いで行われており、今後も発掘調査の増大が予想される地域である。

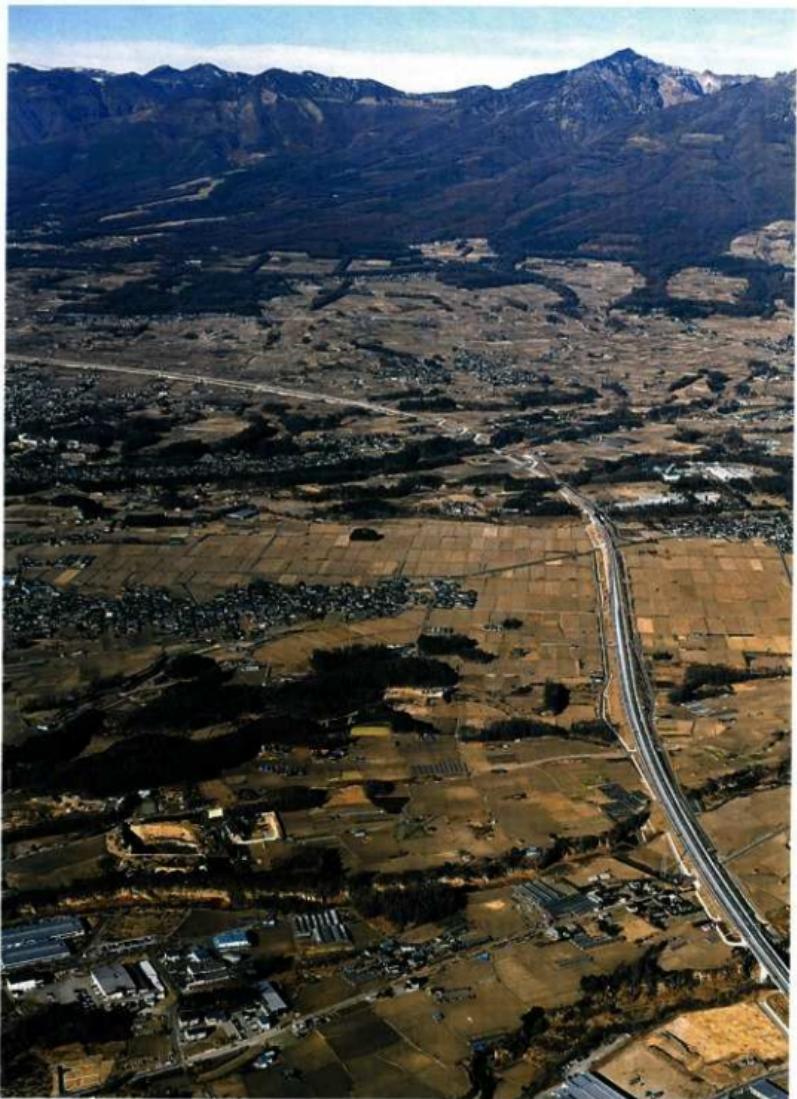
佐久流通業務団地造成事業に伴う聖原遺跡の発掘調査は、平成元年度から平成 6 年度までの 6 力年で約 90,000m² の調査が行われた。今回の聖原遺跡IXはこの継続事業として実施され、7 年間行われた聖原遺跡の発掘調査は平成 7 年度をもって終了した。

調査概要

平成 7 年度に調査を実施した聖原遺跡IXは、平成元年度から調査を行った聖原遺跡 I・III・IV・V・VI・VII の継続事業であり、調査面積は 7,600m² である。7 年間の調査面積は約 97,000m² に及ぶ。聖原遺跡IXで検出された遺構は、竪穴住居址 45 棟、掘立柱建物址 75 棟、土坑 8 基、粘土坑 5 基、その他溝状遺構、ピット等である。昭和 63 年度に調査された上聖端遺跡と聖原遺跡 I・III・IV・V・VI・VII・IX で調査された遺構の総数は、竪穴住居址 975 棟、掘立柱建物址 860 棟にのぼる。

警察逮捕免罪区設定図





豊原遺跡IX付近航空写真



豊原遺跡IX 3 A 地区航空写真

聖原遺跡X

所在 地 佐久市大字長土呂

調査委託者 (株)アメニティーズ

開発事業 パチンコ店・映画館・レストラン建設

調査期間 平成7年4月17日～10月4日

調査面積 4,200m²

調査担当者 林 幸彦



聖原遺跡X位置図

経過と立地

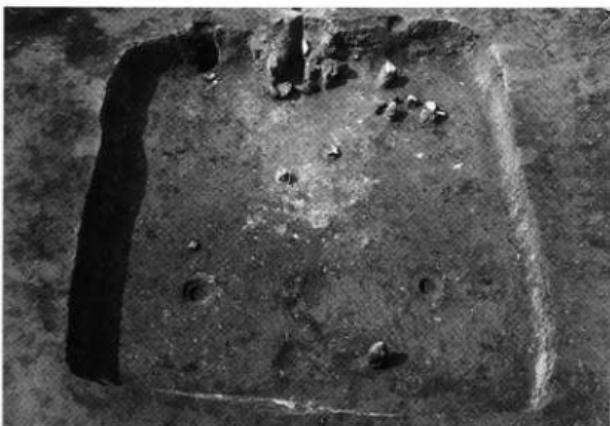
聖原遺跡は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代の集落遺跡として知られている。浅間火山の第1軽石流の堆積と浸食により形成された「田切り」の台地上に立地している。

付近では、上信越自動車道のアクセス仙禄湖線や流通業務団地に伴う緊急発掘調査で古墳時代から平安時代の竪穴住居975軒、掘立柱建物址858棟、土坑453基等が検出されている。

今回、株式会社アメニティーズがパチンコ店・映画館・レストランを建築するにあたり記録保存調査を実施した。

調査概要

対象地からは、上聖端遺跡から続く古墳時代～平安時代の竪穴住居35軒、掘立柱建物址33棟、土坑27基、溝8本が検出された。また、須恵器、土師器、鉄器などの遺物が多く出土した。

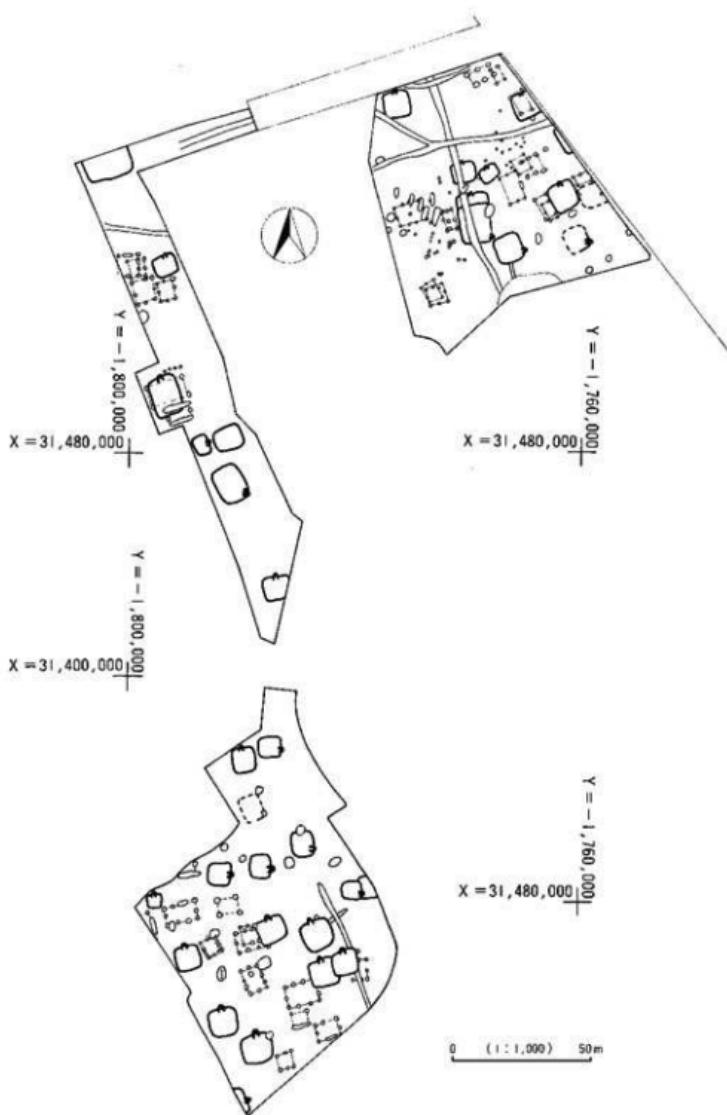




B 地区全景



C 地区全景



型原遺跡X全体図

高山遺跡Ⅱ

所 在 地 佐久市大字長土呂字下高山 717-1

調査委託者 佐久市土地開発公社

開 発 事 業 宅地造成

調査期間 平成7年4月10日～6月2日

調査面積 3,046m²

調査担当者 三石宗一



高山遺跡Ⅱ位置図

経過と立地

芝宮遺跡群は、佐久市の北部、浅間南麓末端部の南西にのびる田切り地形の台地上に位置し、この田切りに挟まれた台地上には長土呂遺跡群、周防炮遺跡群、近津遺跡群、枇杷坂遺跡群など多くの遺跡群が存在している。高山遺跡は芝宮遺跡群の西端部に位置し、標高は719m内外を測る。この地域は、上信越自動車道、国道141号ハイウェイなどの道路整備事業、区画整理事業、民間開発などに関する発掘調査が相次いで行われており、本遺跡群内においても下芝宮遺跡I・II・III、南上中原・南下中原遺跡、上高山遺跡I・II、南下中原遺跡II、上芝宮遺跡、下曾根遺跡I～IVなどの調査が行われており、今後も発掘調査の増大が予想される地域である。

今回の高山遺跡Ⅱの発掘調査は、平成5年度に行われた高山遺跡の継続事業として実施されたものである。

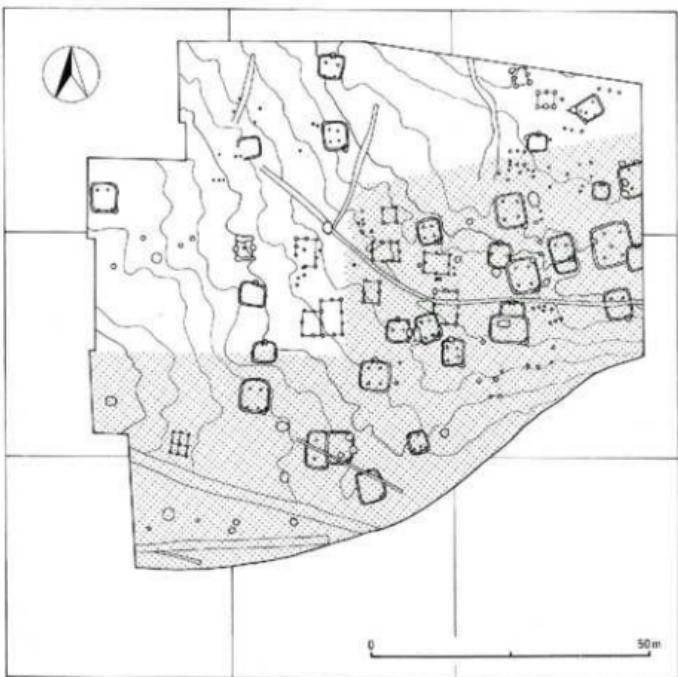
調査概要

今回の調査で検出された遺構は、竪穴住居址8棟、掘立柱建物址8棟、土坑7基、溝状遺構3条であり、出土遺物には土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄製品等がある。

平成5年度に調査を行った高山遺跡とあわせると、竪穴住居址30棟、掘立柱建物址14棟となる。検出された竪穴住居址は、いずれも平安時代のものであり、東南隅にカマドをもつものが16棟を数える。



高山遺跡II航空写真



高山遺跡II全体図 (1 : 1,000)

高師町Ⅱ

所 在 地 佐久市大字新子田

調査委託者 佐久市農業共同組合

開発事業 祀祭センター及び多目的ホール建設

調査期間 平成7年11月21日～11月30日

調査面積 1,800m²

調査担当者 羽毛田卓也



高師町遺跡Ⅱ位置図

経過と立地

高師町遺跡群は佐久市大字新子田に所在し、南北に伸びる田切り地形の帯状台地上標高701m～711mに展開する平安時代を主体とする遺跡群である。本遺跡は昭和61年度に調査され、平安時代の特殊遺構などが検出されている。今回調査した高師町遺跡Ⅱは、本遺跡群の中央北側の標高709m内外を測る台地中央に位置する。

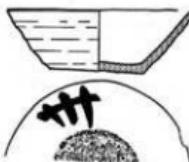
今回、佐久市農業共同組合が行う祀祭センター・多目的ホール建設にともない、同農業共同組合と佐久市教育委員会との協議の結果、破壊が余儀なくされ、建物部分と削平部分について同農業共同組合より委託を受けた同教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。

調査概要

検出された遺構は、平安時代前期の竪穴住居址4軒、平安時代・中世の掘立柱建物址8棟、平安時代・中世の土坑4基、中世の土蔵状竪穴遺構5基などである。遺物は富士神宝や多量の墨書き器が出土した。



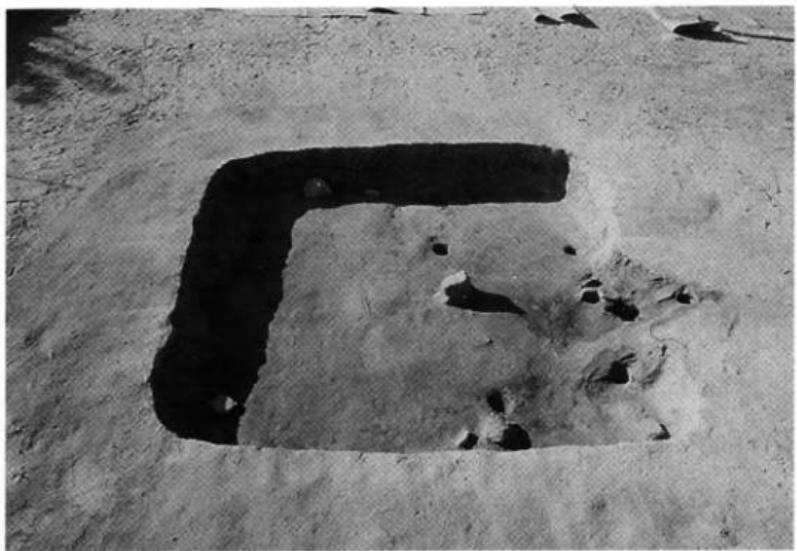
H4号住居址出土古銭拓影図 (1:1)



H1号住居址出土墨書き須恵器 (1:4)



高師町Ⅱ遺跡近景（西より）



H 4号住居址（東より）

上芝宮遺跡V

所 在 地 佐久市大字長土呂字上芝宮 779-1

調査委託者 クロスロード開発株式会社

開 発 事 業 宅地造成工事

調 査 期 間 平成 7年 9月 26日～10月 5日

調 査 面 積 300m²

調査担当者 森泉かよ子



上芝宮遺跡V位置図

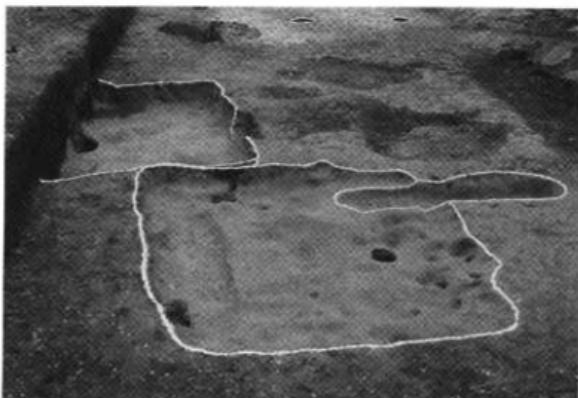
経過と立地

上芝宮遺跡Vは、浅間山南麓末端部の田切り地形が発達した地域に所在し、台地上に集落が分布している。今回、当地に宅地造成がなされることになり、事前に試掘調査を行い、竪穴住居址9棟、掘立柱建物址2棟、土坑等が検出された。発掘調査は道路建設地のみ行い、他は盛土保存することになった。

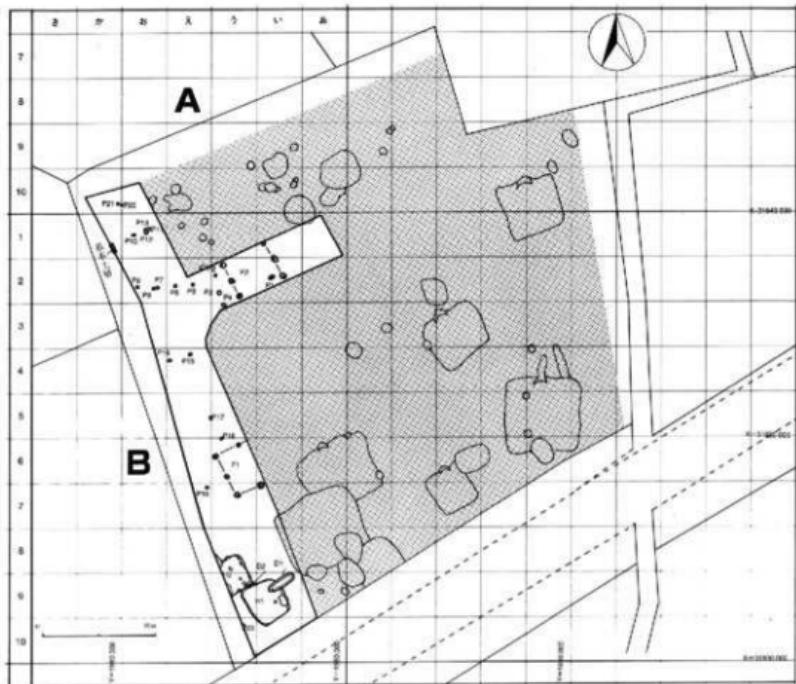
調査概要

竪穴住居址2棟、掘立柱建物址2棟、土坑2基、単独Pit 21基を調査した。竪穴住居址は2棟とも平安時代であるが、中期と末頃の住居址である。

試掘調査では古墳時代後期の土器を出土する竪穴住居址もみられ、この台地全般の集落展開と一致している。



上芝宮遺跡V全景（南より）



上芝宮遺跡V地区全体図、試掘調査プラン確認図



上芝宮遺跡V
H1号住居址（南より）

平賀中屋敷遺跡Ⅱ

所 在 地 佐久市大字平賀字北耕地

調査委託者 佐久建設事務所

開 発 事 業 交通安全事業に伴う歩道設置建設

調 査 期 間 平成 8 年 1 月 16 日～19 日

調 査 面 積 119m²

調査担当者 富沢 一明



中屋敷遺跡Ⅱ位置図

経過と立地

中屋敷遺跡は滑津川南の段丘上にあり、調査地点の標高は 687 m 前後を測る。周辺には、弥生時代中期から平安時代までの大規模な集落址が発見された樋村遺跡がある。

今回は前年に調査された地点の延長部分であり、県道香坂中込線と国道 254 号線の交わる交差点まで調査を行った。前回の調査では堅穴住居址 4 軒（平安時代、10 世紀後半～11 世紀初頭）・土坑 3 基を検出している。

調査概要

今回の調査で検出された遺構は堅穴住居址 3 軒・溝状遺構 1 本・Pit 6カ所であるが、前回同様に幅 2 m の発掘調査のため全容を把握できる住居址はなかった。しかし、検出された住居址がいずれも古墳時代後期の所産と考えられ、滑津川対岸に位置する樋村遺跡との関係が注目されるところである。



中屋敷遺跡Ⅱ全景

西一本柳遺跡Ⅲ

所 在 地 佐久市大字岩村田字西一本柳

調査委託者 佐久市（都市計画課）

開発事業 道路建設

調査期間 平成7年7月24日～11月30日

調査面積 3,400m²

調査担当者 小林眞寿



西一本柳遺跡Ⅲ位置図

経過と立地

西一本柳遺跡を包括する一本柳遺跡群は、湯川左岸の台地上にあって標高689～700mを測る。弥生時代中期から中世に至る多くの遺構・遺物が過去の調査において検出されており、遺構の密度、出土遺物の量・質において佐久平の古代史を考える上で最も重要な遺跡のひとつと認讃され



西一本柳遺跡を北から望む

ている。

今回、佐久市都市計画課により道路建設が計画されたため、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

調査概要

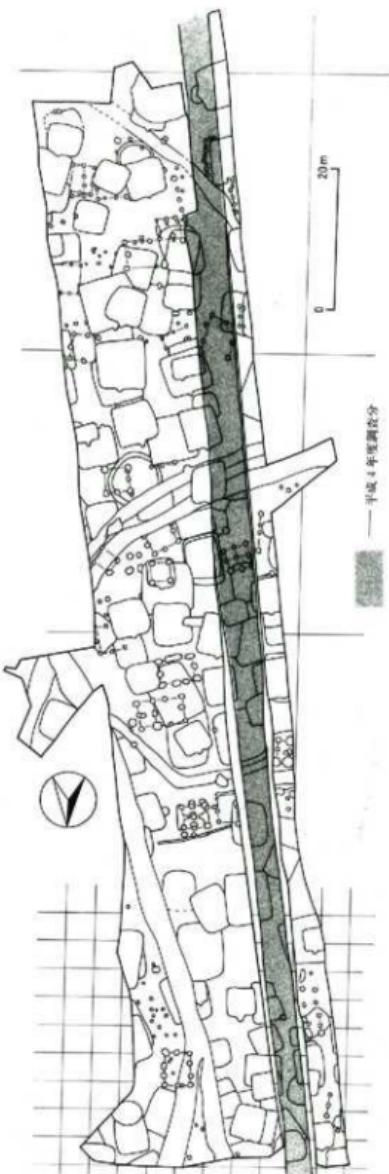
今回の調査は、平成4年度に行われた西一本柳遺跡IIの両側であり、調査以前から数多くの遺構が検出されるであろうことが予測された。以下に調査遺構の概要を記す。

住居址	122軒
掘立柱建物址	25棟
土抗	5基
構址	9条
Pit	183基



▲西一本柳II出土剣型石製品

西一本柳II全体図▶





西一本柳遺跡Ⅲ全景

中西の久保遺跡Ⅱ

所在地 佐久市大字岩村田字中西の久保

調査委託者 佐久市（土木課）

開発事業 道路改良

調査期間 平成7年5月26日～7月28日

調査面積 1,650m²

調査担当者 上原 学



中西の久保遺跡Ⅱ位置図

経過と立地

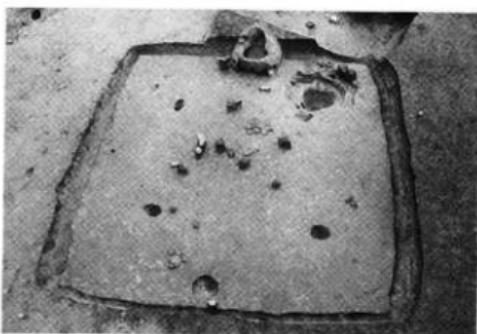
中西の久保遺跡は、遺跡に隣接する南側を東西方向に流れる湯川の第一段丘面上に立地する。標高は682m内外を測り、湯川との比高差は約12mである。この遺跡周辺は、遺跡の密集地帯として知られており、北には弥生時代の人面付土器を出土した西一本柳遺跡のほか、古墳及びこれに伴う埴輪（人物埴輪・飾り馬・円筒埴輪等）を出土した北西の久保遺跡が所在し、弥生時代から平安時代に至る多くの遺構が調査されている。また中西の久保遺跡群内では、今回の調査区の西側に隣接した地域において、平成4年に下水道工事に伴う調査が行われ、古墳時代から平安時代の遺構が確認されている。

今回、佐久市建設部土木課による道路改良事業に伴い、遺構の破壊が予想されるため発掘調査を行う運びとなった。

調査概要

調査は、遺構の破壊が予想される1,650m²について行った。

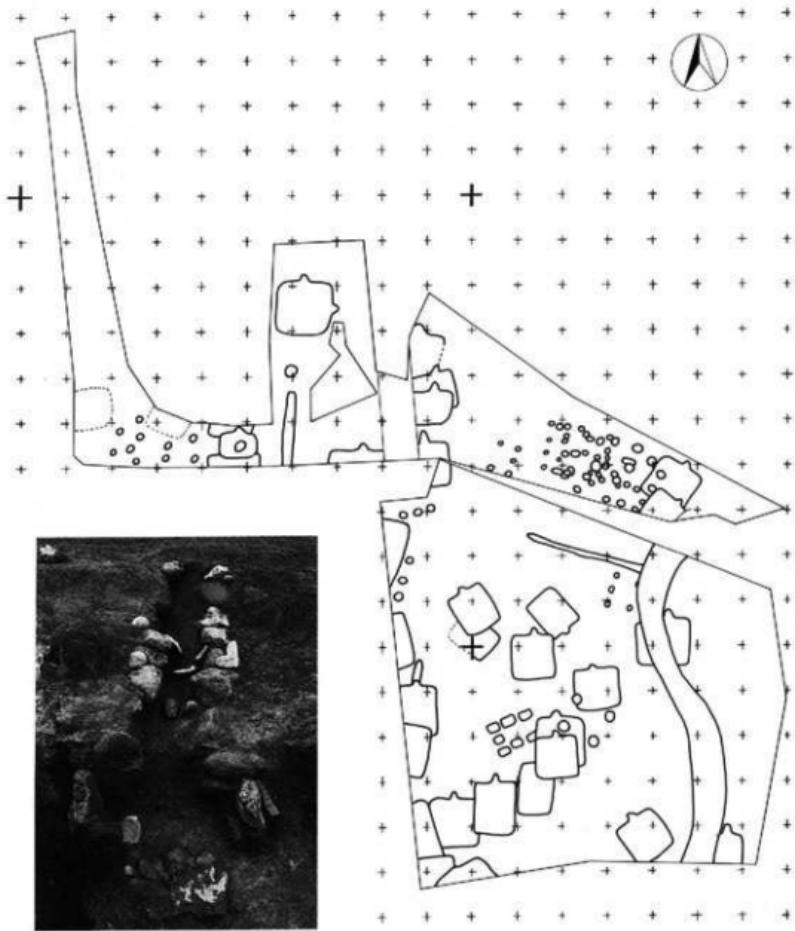
確認された遺構は古墳・平安時代を中心で、奈良時代のものも若干見られた。遺構は住居址34棟、掘立柱建物跡7棟、溝3条である。遺構の状態は比較的良好で、住居に構築されたカマドには残りの良いものが多く見られた。これらの



中西の久保遺跡住居址全景（南から）

カマドは、構築材の主体を粘土とし、袖部・焚口天井部には補強材として石を多用している。ま

た、これらのカマドの中には、煙道部が壁から2m近く外にのび、その両脇に石を並べた特徴的なものも見られた。遺物は各住居跡とも須恵器・土師器を中心に多くの遺物が認められた。



中西の久保遺跡住居址カマド（奈良時代）

中西の久保遺跡構配地図（1:500）

寺畠遺跡Ⅱ

所 在 地 佐久市大字猿久保字下原

調査委託者 佐久市（土木課）

開 発 事 業 道路改良

調査期間 平成7年8月28日～

9月11日

調査面積 1,200m²

調査担当者 上原 学



寺畠遺跡Ⅱ位置図

経過と立地

寺畠遺跡Ⅱは、遺跡の北を東西方向に流れる湯川の第二段丘面上に位置する。標高は688mを測る。遺跡に隣接する南側は、寺畠遺跡として、平成6年佐久市都市開発部都市計画課による道路整備事業に先立ち発掘調査が行われ、撲文草創期に位置付けられる爪形文土器が出土し、注目された。

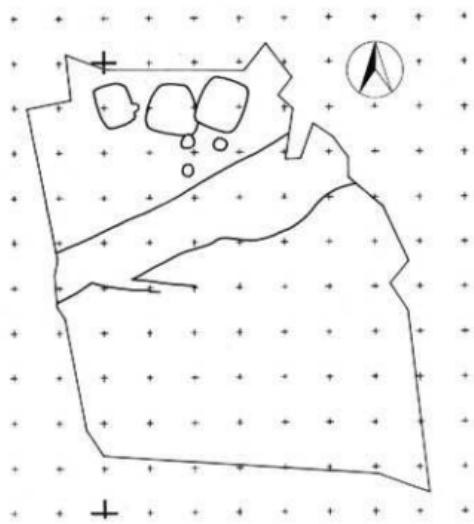
今回、佐久市建築部土木課による道路改良事業に伴い遺構の破壊が予想されるため本調査を行う運びとなった。

調査概要

平成6年度に行われた寺畠遺跡の調査によって、佐久市で最古の土器と考えられる爪形文土器が出土したことから、今回の調査は比較的浅めに表土を取り除き遺構の確認を行った。その結果、爪形文土器に伴う遺構の確認こそできなかったが、新たに14片の爪形文土器を発見した。このほか平安時代の住居址1、溝1、土坑3、竪穴状遺構2を検出した。



寺畠遺跡Ⅱ土器出土状況



寺畠遺跡Ⅱ遺構配置図（1:500）



寺畠遺跡Ⅱ全景（南から）

仲田遺跡

所在 地 佐久市大字蒙久保字仲田

調査委託者 佐久市（土木課）

開発事業 道路改良

調査期間 平成7年7月27日～

10月6日

調査面積 2,260m²

調査担当者 上原 学



仲田遺跡位置図

経過と立地

仲田遺跡は遺跡に隣接する南側を東西方向に流れる湯川の第一段丘面上に位置する。標高は677m内外を測り、湯川との比高差は約7.0mである。

今回、佐久市建設部土木課による道路改良事業が行われることとなり、遺跡の有無を確認するため平成7年8月19日～21日にかけて試掘調査を行った。その結果、古墳時代から平安時代に至る遺構が確認されたため、本調査を行う運びとなった。

調査概要

調査によって、古墳時代から平安時代に至る住居址30棟、掘立柱建物跡9棟、土坑5基を確認した。

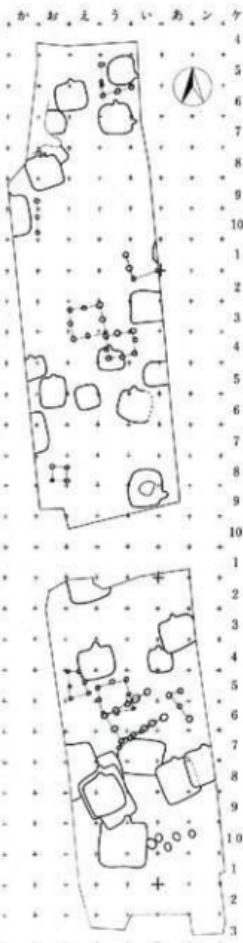
遺構の状態は良好なものが多く、特に住居址は深いもので1.0m近いものも認められた。またこれらの住居に付随するカマドは、扁平な石を組み合わせたもの、粘土を主体として構築したものが大半を占め、構築されている方向は北及び西側に限られていた。

遺物は各住居址とも土器類・須恵器を中心多く認められた。特徴的



仲田遺跡住居址出土八花鏡

な遺物としては、奈良時代の鏡とさ
れる花卉双蝶八花鏡が住居址から出
土した。



仲田遺跡遺構配置図 (1:750)



仲田遺跡全景（南から）



仲田遺跡住居址出土遺物（古墳時代）



仲田遺跡住居址カマド（奈良時代）

榛名平IV

所 在 地 佐久市大字根岸字榛名平

調査委託者 佐久市都市計画課公園係

開 発 事 業 葦草公園建設

調 査 期 間 平成 7 年 6 月～9 月

調 査 面 積 1,912m²

調査担当者 富沢 一明



榛名平遺跡IV位置図

経過と立地

榛名平遺跡は佐久市の西端に所在し、蓼科山麓末端の台地状を呈した丘陵上に位置する。遺跡前面には圃場整備が終了した水田が広がり、宮川・中沢川などの中小河川が東流して千曲川に合流している。周辺の遺跡としては、西約 400 m の尾根上に瀧の峯古墳群が、また北西約 1km に石附塚群が存在する。

当遺跡は、平成 5・6 年度に厚生年金福祉施設「サンピア佐久」建設に伴い発掘調査が行われ、竪穴住居址 114 軒（縄文前期～平安）・竪穴状遺構 33 棟・溝状遺構 33 本・土坑 243 基・中世墳墓 59 基古墳址 2 基等と中世館跡と考えられる遺構が検出されている。今回調査を行った榛名平遺跡 IV は前回の調査地点の西端にあたり、標高 700 m 前後を測る東斜面の畠地である。



榛名平遺跡全景

調査概要

今回の調査地点は2地点に分かれ、まず公園駐車場部分では、竪穴住居址やPitと埋没谷などが検出された。竪穴住居址は東側がいずれも削平されたものであり、残存状況はあまり良好でなかった。しかし、検出された住居の内3軒が、佐久平では稀少な弥生時代後期末から古墳時代初頭の所産と考えられるものであった。また、埋没谷からは当時期の土器が多量に廃棄された状態で出土した。次に公園内道路であるが丘陵北斜面には遺構は存在せず、東斜面において縄文時代中期と考えられる円形の大型土坑が密集して検出された。土坑はいずれも径1m内外・深さ0.8~1mを測る。また、前年の調査同様2基の中世の墓が確認されたが、前回の様な密集した状況ではなかった。



公園駐車場部分



「サンビア佐久」工事風景



古墳時代前期住居址



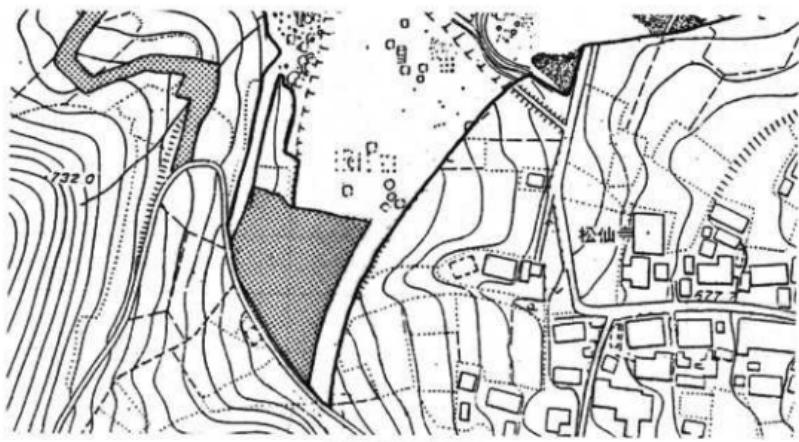
埋没谷遺物出土状況



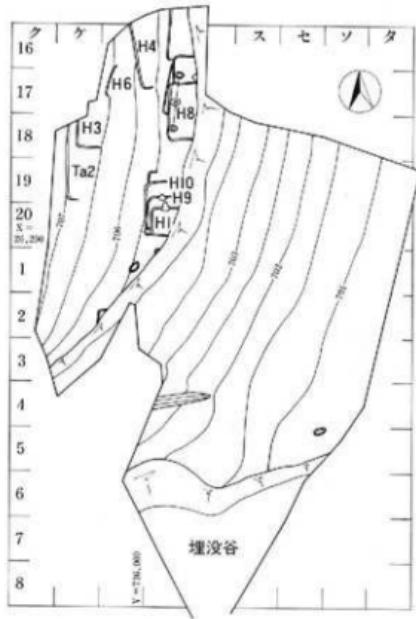
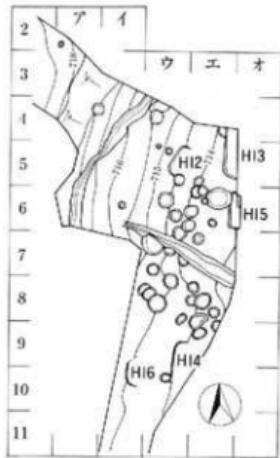
住居址出土遺物



公園道路部分



権名平遺跡IV位置図



権名平遺跡IV調査全体図 (1:500)

上村遺跡

所 在 地 佐久市大字長土呂字上村

調査委託者 佐久市

開発事業 佐久駅周辺土地区画整理事業

調査期間 平成7年10月27日～11月9日

調査面積 202m²

調査担当者 富沢 一明



上村遺跡位置図

経過と立地

長土呂遺跡群上村遺跡は遺跡群の南端に位置し、標高は705m前後を測る。周辺部の地形は北東よりのびる「田切り」地形が消失し、南には現在水田として利用されている低地が広がっている。当遺跡はこの田切りによって形成された段丘が低地にせり出す接点にあたる。

周辺の遺跡としては、西約700mに弥生時代後期の大規模な集落遺跡である周防畠遺跡が、南西約1kmに古代の水田址が確認された濁り遺跡などがある。

今回、北陸新幹線佐久駅の周辺土地区画整理事業にともない試掘調査を行った結果、遺構が検出されたため発掘調査することになった。



上村遺跡全景

調査概要

今回の調査は、区画整理の道路部分を行った。その結果、土坑1基・溝状遺構2本・旧流路2カ所・Pit 6カ所を確認した。調査区北東より検出されたM1号溝は台地縁辺を巡るように検出され、覆土より弥生時代中期～後期の土器片を多量に出土した。この溝は中段において流水によると見られる砂の堆積が確認され、使用廃棄後は流路となっていた事が観察された。また、調査区中央部の流路からは、獸骨の歯や青磁片などが出土しており、当遺跡北方に所在する長土呂館跡との関連が推察された。

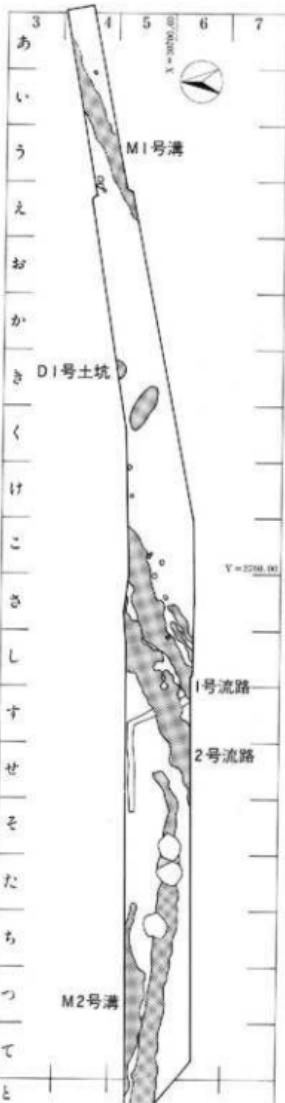
この他の出土遺物としては、1点であるが瓦塔或いは瓦堂の屋根部分を表したと思われる陶製品が出土している。



M1号溝址全景（東より）



M2号溝址全景（東より）



上村遺跡全体図（1:400）

芝宮遺跡群上芝宮遺跡V・下曾根遺跡III

所 在 地 佐久市大字長土呂

調査委託者 佐久市（新幹線高速道課）

開発事業 市道改良

調査期間 平成7年10月16日～12月19日

調査面積 5,000m²

調査担当者 林 幸彦



芝宮遺跡群位置図

経過と立地

芝宮遺跡群は佐久市の北部に位置し、古墳時代から平安時代の集落遺跡として知られている。浅間火山の第一軽石流の堆積と浸食により形成された「田切り」の台地上に立地している。

付近では、上芝宮遺跡I（工業団地進入路）、上芝宮遺跡II・III（市道改良）、下曾根遺跡I（東京電力鉄塔）、下曾根遺跡II（市道改良）等が発掘調査されている。

今回、昨年・一昨年に続き佐久市が市道を改良するにあたり記録保存調査を実施した。

調査概要

上芝宮遺跡Vからは、溝状遺構が1本検出された。

下曾根遺跡IIIからは、古墳時代から平安時代の22軒の竪穴住居址や掘立柱建物址・土坑・溝が検出された。また、須恵器、土師器、鉄器、獸骨などの遺物が多く出土した。



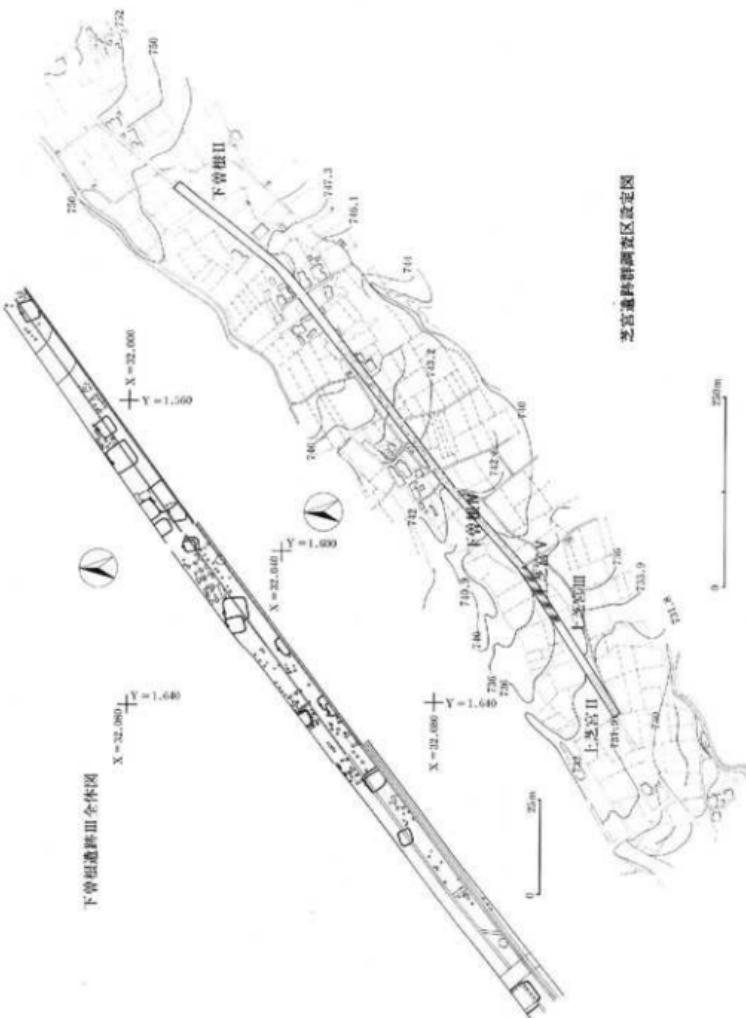
下曾根遺跡III近景



下曾根遺跡Ⅲ溝址遺物出土狀況



同上溝址完掘狀態



下曾根遺跡全体図・芝宮遺跡群調査区設定図



平成 7 年度調査遺跡位置図

佐久市埋蔵文化財 年報5

－平成7年度－

1997年3月31日

編集・発行 佐久市教育委員会

〒384-01 長野県佐久市大字中込3,056

埋蔵文化財課

〒385 長野県佐久市大字志賀5,953

T E L (0267) 68-7321

印 刷 株式会社 COX